



北海道分析化学各賞の受賞者決まる!

支部表彰規定に基づく選考の結果、2021年度北海道分析化学各賞は下記の通り受賞者が決定しました。受賞者の皆様におかれましては心よりお慶び申し上げますとともに、益々のご活躍をご祈念申し上げます。

北海道分析化学賞

(北海道大学大学院工学研究院) 佐藤 久 君

北海道分析化学奨励賞

(北海道大学大学院環境科学院) 大塚 侑 君

北海道分析化学功労賞

(北海道医療大学) 黒澤 隆夫 君



授賞式・受賞記念講演会

主催：(公社)日本分析化学会北海道支部

期日：2022年2月24日(木)16時～17時 オンライン開催<参加無料>

1. 授賞式(16:00～16:10)

北海道分析化学賞	北海道大学大学院工学研究院	佐藤 久 君
北海道分析化学奨励賞	北海道大学大学院環境科学院	大塚 侑 君
北海道分析化学功労賞	北海道医療大学	黒澤 隆夫 君

2. 受賞講演(16:10～17:00)

講演1 「環境工学と分析化学への挑戦」

講演者 佐藤 久(北海道大学大学院工学研究院)

座長 山田 幸司(北海道大学大学院地球環境科学研究院)

講演2 「多段階固相合成による蛍光ソルバトクロミックビーズの合成及び光導波路分光装置を用いたバイオセンシングデバイスの開発」

講演者 大塚 侑(北海道大学大学院環境科学院)

座長 中谷 暢丈(酪農学園大学農食環境学群)

※「授賞式・受賞記念講演会」の事前申し込みは必要ありません(参加無料)

※お問い合わせ先 北海道支部事務局・氏間多伊子(jsac-hb@w9.dion.ne.jp)

これからの行事予定



第57回 氷雪セミナー

日本分析化学会北海道支部主催の第57回氷雪セミナーが下記の通り開催されます。今回は「分子ロボティクス」を主題テーマとして2名の講師にご講演いただきます。

会員の皆様の安全とコロナウイルス蔓延防止を第一に考え、今回の氷雪セミナーはwebセミナー形式で開催いたします。皆で膝をつき合わせて講師の先生を囲んだ議論や懇親会は行えませんし、議論で疲れた頭を温泉でゆっくり休めるといったことはできませんが、多くの皆様にご参加いただき活発な議論により講師の先生を交えて親睦を深めていただければ幸いです。

なお、参加登録費は無料になっておりますので、ご所属の研究室・部門の学生さんにもお声がけいただきご参加いただければ幸いです。

日時:2022年1月11日(火)14:00~16:20

場所:Webセミナー

講演者:景山 義之 先生(北海道大学 理学研究

院)「化学反応で自律系を創るということ、そこから生まれる新視点」

角五 彰 先生(北海道大学 理学研究院)「群れの化学」

参加登録費:無料

申込締切:2021年12月28日(火)

申込み方法:下記参加登録フォームページからお申し込みいただくか、氏名・所属・一般/学生の区分を明記の上、E-mailにて下記までお申し込み下さい。

参加登録フォームページ:

<https://forms.gle/n6vNg9F8GrnbAMVx8>

下記QRコードからも登録可能です。



申込先:北海道大学 三浦篤志

E-mail

atsushi.miura@sci.hokudai.ac.jp

TEL:011-706-3398

(北海道大学大学院理学研究院・三浦篤志)

化学系学協会北海道支部 2022年冬季研究発表会

会期 2022年1月25日(火)・26日(水)

会場 オンライン

特別講演

金 有洙先生(理化学研究所)「走査トンネル顕微鏡で拓く単一分子エナジェティクス」

参加登録費

登録(2022年1月24日(月)までに登録・振込分):
一般(共催学協会会員)無料/一般(非会員)5,000円/学生(発表・要旨閲覧)無料/学生(聴講のみ)無料 [参加登録費は「不課税」]

要旨公開

講演要旨はウェブシステム上で参加登録者に公開
講演要旨の公開日は2022年1月19日(水)。

講演要旨をもって特許における公知日とされる方はご注意ください。ダウンロードには参加登録に使用したメールアドレスとその際にメールでお送りした受付コードが必要です(複数名で申込みをさ

れた場合は共通)。なお、ダウンロードは振込(支払い)が確認された後ですので、余裕をもって参加登録をお願いします。また、要旨の著作権は化学系学協会北海道支部2022年冬季研究発表会実行委員会が有します。ダウンロードした要旨ファイルを放送やネットワークを利用するなどして多数の者に閲覧させること、印刷して多数の者に配布すること、あるいは、多数の者にメール配信はすることはできません。ダウンロードはこれに同意された場合に限りです。

登録と振込

参加登録と懇親会の申込みは2022年1月24日(月)までにウェブシステムから行い、有料の場合には、参加登録受付メールに記載の銀行口座に2022年1月24日(月)までに振込んで下さい[当日申込みは受け付けておりません]。申込みは代表者がまとめて行い、研究室などの単位で登録し、必ず申込分をまとめて振込んで下さい。振込後、参

加登録受付メールの返信にてお知らせください。なお、領収書は入金を確認された後、参加登録受付メールに記載の「参加登録受付コード」と「代表者の

メールアドレス」でウェブシステムからダウンロードできます。有料の場合には、まとめて振込んで頂いても領収書は個別に発行されます。

連絡先

実行委員会委員長：001-0021 札幌市北区北 10 西 8 北海道大学大学院理学研究院 上野貢生

電話：011-706-2697

電子メール：toukiken@pcat.cat.hokudai.ac.jp

FAX：011-706-4630

ウェブシステム：<https://pcat.cat.hokudai.ac.jp/toukiken>

(北海道大学大学院理学研究院・上野貢生)

これまでの終了行事報告



2021 年 夏季研究発表会

日本化学会北海道支部主催、日本分析化学会北海道支部ほか共催で、2021 年夏季研究発表会を、7 月 17 日土曜日にオンラインで実施しました(実行委員長:北海道大学水産科学研究所・酒井隆一先生)。一般講演 73 件、特別講演 2 件がありました。参加者は 189 名でした。特別講演では、帯広畜産大学産学連携センター・宮下和夫先生による「EPA と DHA の酸化と抗酸化」、日本化学会筆

頭副会長・大阪大学先導的学際研究機構・三浦雅博先生による「直接的芳香族カップリング反応の新展開」のご発表がありました。特別講演でも大勢の参加者があり、学生からの質問もあり盛況でした。ご参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。来年の発表会にも、多くのご参加をお待ち申し上げます。

(北海道大学大学院水産科学研究所・大木淳之)

2021 年 公開セミナー (対面+オンライン)

11 月 12 日(金)、旭川工業高等専門学校にて「日本分析化学会北海道支部 2021 年度公開セミナー兼日本化学会北海道支部 2021 年度旭川地区講演会」が開催されました。新型コロナウイルスの影響もあって、今年度は日本化学会北海道支部との共同開催という形を取りながら、対面+オンラインのハイブリッド形式での実施となりました。

旭川市にある北海道立総合研究機構林産試験場の檜山 亮先生からは、「北海道における木質粗飼料の研究開発と実用化」というテーマでご講演頂き(対面形式)、シラカンバやヤナギなどの消費拡大と、肉牛の付加価値向上を目指した地域密着型産官学共同プロジェクトが大きな実を結びつつある状況をお話し頂きました。

また、東京都立川市に立地する国立極地研究所の大藪幾美先生からは、「氷床に刻まれた地球の歴史 ~アイスコアの分析からわかる過去の気候変動~」というテーマで、南極/北極から得たアイスコアの精密分析を基とした気候変動モデルの構築と、それを用いた地球環境予測の重要性について、最新の研究成果や豊富な動画を交えながらお話し頂きました(オンライン形式)。

対面+オンライン合わせて約 90 名の参加を頂き、新進気鋭の研究者の大変興味深いお話を伺うことができました。本事業の開催に当たり、お世話になった関係各位に心から感謝申し上げます。

(旭川工業高等専門学校・古崎 睦)

2021 年 北海道地区化学教育研究協議会

コロナウイルス感染拡大の影響により昨年度中止となった北海道地区化学教育研究協議会が、本年度は 11 月 13 日(土) 10:30~16:30 にオンライン(zoom)で開催された。参加者数は、大学、高校、

中学校、小学校、理科教育センターの教職員および学生を合わせて 45 名程度であった。開会挨拶に続いて、国立教育政策研究所教育課程研究センター・学力調査官の神 孝幸氏より、「授業改善

を目的とした授業実践事例から、資質・能力の育成と学習評価を考える」と題して特別講演が行われた。平成 29～30 年に改定された小中高の学習指導要領では、学習内容だけでなく学び方や身に付けさせたい資質・能力に言及され、そのために実践すべきことが示されており、それぞれについて丁寧な説明があったのち、化学に関する具体的な授業の実践例が紹介された。

午後からは、「理科(化学)教育における小・中・高・大学での取り組み」と題して、小学校、中学校、高等学校、大学のそれぞれの教員からの提言があった。鶴田 庸介氏(旭川市立大有小学校・教諭)による「北海道理科教育研究会旭川支部小学校部会の取組～小学 5 年生「もののとけ方」の学習を通して～」では、児童による質的・実体的な見方、協働的な問題解決ならびに学んだことと日常現象との関連付けに関する学習指導の紹介があった。佐藤 大志氏(網走市立第一中学校・主幹教諭)からは「協働学習を実現する「ワールドカフェ形式」と「究極のイオンモデルの開発」と題して、ワールドカフェ形式を取り入れた授業の実施と協働学習・全員発表の取り組みが報告された。池浦 真奈美氏(北海道上士幌高等学校・教諭)による「コロナ禍におけるさまざまな取り組み」では、北海道高等学校「学びの重点化」推進プロジェクトの研究指定校としてのコロナ禍での取り組みについて紹介された。最後に、中山 雅茂氏(北海道教育大学釧路

校・講師)による「どうこだわるか・どう楽しむか」と題して、演者が取り組んできた科学教育・理科教育のなかで化学に関わる取り組みが紹介された。いずれの提言も、個々の学び方、協働、新しいツールの利用など、現代社会に求められる新しい教育のあり方に対応されており、児童・生徒たちが活躍する未来を意識した取り組みであると感じられた。また、そうした取り組みを実践する上での教員として心構えや考え方についても、参加者全員で共有できたのではないかと感じた。

引き続き行われた「小・中・高・大学での研究実践と課題に関する討論」では、西村 昇氏(北海道札幌西高等学校・教諭)を司会として、化学に興味を持たせる工夫等について議論された。初めてのオンラインでの開催であったが、大きなトラブルもなく、対面で行うこれまでの研究協議会と同様、多くの有意義な意見が交わされた。次年度以降、コロナ禍の収束に伴い再び対面での開催に戻ることになると思われるが、開催地に集うことなく参加できるオンライン開催は広い北海道において大きなメリットとなるはずである。今後は対面型とのハイブリッドや実験室からの実演中継など、オンラインの利点を取り込んだ開催を通じて、道内の多くの理科・化学教育者がより気軽に参加できる会になることに期待したい。

(北海道大学大学院工学研究院・谷 博文)

編集後記

支部ニュース第 64 号をお届けいたします。この度、ご多忙の中、ご寄稿頂きました執筆者の皆様、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。来年度の支部ニュース編集は、沼田ゆかり(小樽商科大学、留任)と、今枝佳祐(北海道大学、新任)との二人体制で行う予定です。今年は、新型コロナウイルス

感染症拡大防止対策のため中止や延期、オンライン開催となりました行事が多数ございましたが、今後とも支部ニュースへのご支援ならびにご協力をお願い申し上げます。

(編集委員 : 羽深昭、沼田ゆかり)

公益社団法人 日本分析化学会北海道支部事務局

札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目 1

北海道教育大学札幌校化学教室内 支部長 蠣崎悌司

TEL 011-778-0685 E-mail jsac-hb@w9.dion.ne.jp

URL <http://www.jsac.or.jp/~hokkaido/index.html>

北海道支部ニュース 第64号

編集・発行

公益社団法人

日本分析化学会北海道支部

発行日

2021 年 12 月 15 日